

## 平成21年度 自己評価計画書

| 重点目標   | 具体的取組   | 主担当       | 現 状                                 | 評価の観点  | 実現状況の達成度判断基準   | 判定基準                    | 備 考                         |
|--|---|-----------|-------------------------------------|--|--|-------------------------|-----------------------------|
| 1 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、意図的・計画的な学習指導に努めると同時に、高い倫理観に裏付けられる教師の資質向上を目指す。 | ① わかる授業・魅力ある授業への工夫改善を目指した研究授業・公開授業を実施する。          | 教務        | 研究授業・公開授業の実施時期が遅く、改善の成果を十分に生かしていない。 | 【努力目標】<br>授業を積極的に参観し、他の教員の取り組みを取り入れて自らの授業改善を進める。                             | 研究授業に参加した回数が<br>A 4回以上<br>B 3回<br>C 2回<br>D 2回未満 である。  | A+Bが70%以下の場合、実施方法を検討する。 | ビデオ撮影を実施し、授業改善に役立てる。        |
|  | ② 教師としての資質向上を目指した校内研修会を実施する。                      | 総務        | 求められる教師像について、互いに理解を深める場が必要である。      | 【満足度指標】<br>校内研修会の実施が教師としての資質向上に向けて良い機会となる。                                   | 授業の参観回数が<br>A 7回以上<br>B 5～6回<br>C 3～4回<br>D 3回未満 である。  | C以下の場合、実現方法を検討する。       |                             |
| 2 一人一人の可能性を十二分に引き出す教科指導により、看護師・介護福祉士ともに国家試験合格率100%を目指す。        | ① 専門教科の指導の充実を図るとともに、習得度が一定レベルに到達するまで補習や個別指導を実施する。 | 衛生<br>看護科 | 考査で、本校が目標としているレベルに達していない生徒がいる。      | 【成果指標】<br>＜高校＞専門教科の評点が60点以上の生徒が80%以上である。<br>＜専攻科＞専門教科の評点が80点以上の生徒が90%以上である。  | 一回で目標達成した生徒が<br>＜高校＞      ＜専攻科＞<br>A 90%以上    95%以上<br>B 80%以上    90%以上<br>C 70%以上    80%以上<br>D 70%未満    80%以上 である。                             | C以下の場合、指導法の再検討          | 全生徒が目標に達成するまで考査後も個別指導を継続する。 |
|  |   | 健康<br>福祉科 | 学力層に応じた指導が十分に行われていない。               | 【成果指標】<br>定期考査の評点が60点以上の生徒がクラスの70%以上である。<br><br>【成果指標】<br>模擬試験の得点率が70%以上である。 | (1,2年生)<br>60点以上の生徒の割合が<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満 である。<br>(3年生)<br>クラスの平均得点率が<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満 である。 | C以下の場合、指導法の再検討をする。      | 全生徒が目標に達成するまで考査後も指導を継続する。   |

| 重点目標  | 具体的取組                                    | 主担当        | 現 状   | 評価の観点  | 実現状況の達成度判断基準  | 判定基準   | 備 考                              |
|---|--|------------|---|--|---|--|----------------------------------|
| 3   地域の医療・福祉機関を支える看護師・介護福祉士の役割の大きさの啓発に努め、本校志願者の増加を図る。 | ① 学校説明会及び地区説明会、「看護・福祉への道」説明会等の啓発活動を強化する。 | 総務<br>教務   | 各説明会を実施したが満足できる参加人数ではなかった。                      | 【成果指標】<br>地区説明会等への参加人数が前年度を上回る。                          | 説明会等への参加人数が、<br>A + 10 %<br>B + 5 %<br>C 5%～0 %<br>D - 0%以下である。   | C以下の場合、取り組み体制を強化する。                                    | 各回毎に集計する。                        |
|   | ② 中学校の文化祭や地域での健康チェックを実施する。               | 衛生<br>看護科  | 衛生看護科生が、地域へ出て技術を活用する機会が増えている。                   | 【成果指標】<br>健康チェックに満足し、本校への理解が深まる。                         | 本校に対する理解が深まったという人数が<br>A 90%以上<br>B 80%以上<br>C 70%以上<br>D 70%未満 である   | C以下の場合、測定方法や説明方法について再指導する、                             | 健康チェック実施後、アンケート調査を行う。            |
|   | ③ 小・中学校への福祉の出前授業や本校での交流学习を実施する。          | 健康<br>福祉科  | 医療・福祉関係機関には、本校教育への理解が深まりつつあるが、小・中学生の理解は低い状態である。 | 【成果指標】<br>小・中学校での出前授業や本校での交流学习の実施回数が増加する。                | 小・中学校の出前授業や交流学习の実施回数が<br>A 30回以上<br>B 20回以上<br>C 15回以上<br>D 15回未満 である。  | C以下の場合、情報提供の強化を行う。                                     |                                  |
| 4   部活動や生徒会活動の活性化を図るとともに、看護や福祉の道を進む生徒にふさわしい体力向上に取り組む。 | ① 部活動を活性化させるため、活動日数の増加を図る。               | 生徒会<br>部顧問 | 運動部に比べて、文化部は活動日数の少ない部もある。                       | 【成果指標】<br>部活動の活動日数が向上する。                                 | 年間活動日数（12月まで）の平均が<br>運動部 文化部<br>A 150日以上 60日以上<br>B 135日以上 50日以上<br>C 120日以上 35日以上<br>D 120日未満 35日未満 である。                                 | C以下の場合、向上策を検討する。                                       | 月毎に各部活動の活動状況調査を実施する。             |
|   | ② 体育の授業に持久的運動を継続的に実施するとともに、合同部活動を推進する。   | 部顧問<br>体育科 | 体力テストにおいて、県平均を上回っている項目が多いが、持久力と握力では下回っている。      | 【成果指標】<br>体力テストの「持久走」の記録が向上するとともに、多くの生徒が体力アップ合同部活動に参加する。 | 体力テストの「持久走」の記録が向上した生徒が<br>A 10%以上<br>B 5%以上<br>C 5%未満～0 %<br>D 減少した<br>1,2年生の<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 50%以上<br>D 50%未満<br>が合同部活動に参加した。 | C以下の場合、取り組み方法・内容を改善する。<br><br>C以下の場合、参加率向上のための方策を検討する。 | 春と秋に2回測定する。<br><br>総体・総文後から実施する。 |

| 重点目標  | 具体的取組   | 主担当                        | 現 状  | 評価の観点   | 実現状況の達成度判断基準  | 判定基準                            | 備 考   |
|---|---|----------------------------|--|---|---|---------------------------------|---|
| 5 わかる授業・魅力ある授業の展開に努めると同時に、現場実習を通して、思考力・知識の活用力・コミュニケーション能力を育成する。     | ① 病院実習における技術体験を増やすことにより、指導者や患者とのコミュニケーションの機会を増やす。 | 衛生<br>看護科                  | 生徒によって、実習場所での見学や体験に偏りがみられる。                                      | 【成果指標】<br>各病棟における「基本的な看護技術の水準」の8割以上を達成する。                       | 看護技術水準の8割以上を達成した人数が、クラスの<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満である               | C以下の場合、病院実習の指導方法を再検討する。         | 実習終了毎に「チェックリスト」を提出させる。                                  |
|   | ② 施設実習において実習指導者と連携を図り、生徒が利用者に関わりをもつ機会を増やす。        | 健康<br>福祉科                  | コミュニケーションに苦手意識があり、積極的に実習に臨めない生徒がみられる。                            | 【成果指標】<br>実習評価のコミュニケーション能力に関する項目の評価が4段階中「3以上」である生徒の割合が70%以上である。 | 実習評価のコミュニケーション能力に関する評価が、「3以上」の生徒の割合が、<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満である。 | C以下の場合、対象生徒に対し個別指導を行う。          |   |
| 6 看護や福祉の道を目指す生徒として、自らを律し、進んで社会的な生活規範を守り、生命を尊重し、他を思いやる豊かな人間性の涵養に努める。 | ① 携帯電話利用に潜む危険性の周知とフィルタリングの徹底を通して、ネット上のいじめの防止等を図る。 | 総務<br>生徒指導                 | ブログやプロフ等に書き込みをした悪口等を書かれた生徒がみられた。                                 | 【成果指標】<br>他人の掲示板やブログ等へ書き込みをする生徒の人数を減らす。                         | 書き込みをした生徒の人数が<br>A 50%以下<br>B 60%以下<br>C 70%以下<br>D 70%以上 である。                        | C以下の場合、内容、方法等を検討する。             | 前後期の2回、生徒のアンケート調査を実施<br><br>前年度調査で書き込みをしたことがある生徒は80%いた。 |
|   | ② 状況に応じた行動や自らを律する行動がとれるよう、実習前に、事前指導週間を設け、指導を強化する。 | 衛生<br>看護科<br><br>健康<br>福祉科 | 挨拶やコミュニケーション能力が不十分であり、状況に応じた望ましい行動がとれない生徒や思いやりの気持ち不足している生徒も見られる。 | 【成果指標】<br>実習の場において、状況に応じた望ましい行動や思いやりのある行動がとれる。                  | 実習指導者の評価において「よく出来た」と評価された生徒が<br>A 95%以上<br>B 85%以上<br>C 75%以上<br>D 75%未満である。          | C以下の場合、日常の指導強化と個別指導を実施し、意識を高める。 | 実習終了毎にアンケートを実施し、評価する。                                   |